

読んだ本 (ジンジャー・ワズワース／著 上遠恵子／訳 偕成社)

## 「レイチェル・カーソン」

川崎市立宮前小学校六年

董とう 鳳竊ふうおな

みなさんは「沈黙の春」という本を知っていますか。この本は一九六二年にアメリカで出版されました。当時広く使用されていた殺虫剤、除草剤、その他の化学物質が、環境や生き物に世代をこえて影響を与えることを、初めて警告をした本です。この本を書いた著者が、この本の題名になっているレイチェル・カーソンさんです。

この本の中にこんな文があります。「未来を見る目を失い、現実には先んずるすべを忘れた人間。そのゆきつく先は、自然の破壊だ。」

この文には、レイチェルさんの思いがすべてつまっていると思います。つまり、未来を考えずに、今がよければそれでいいと考えている人間のゆく先には、自然の破壊しかないということなのです。

この本にはレイチェルさんの一生がかかれています。この本を読むことで、レイチェルさんの思いがきつと伝わってくるはずですよ。